

H26. 1. 25

両方流行ってます



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。55歳。



「ウイルス」シリーズ⑤

今週になってインフルエンザと、ノロウイルスとみられる感染性胃腸炎の患者さんが急増しました。往診の依頼も毎日のようにあります。この季節、クリニックはまるで野戦病院のようです。さて今回はインフルとノロを比較してみたいと思います。

まずはワクチン。インフルにはワクチンがありますが、ノロにはありません。ノロウ

ノロとインフルエンザ徹底比較

か、どちらか分かります。検査の方法ですが、インフルかどうかは簡易キットで調べます。ただ、発熱後12時間以上経過しなければ陽性になりません。保険診療では検査は原則1回のみなので、タイミングを考えて検査します。検査のタイミングが早すぎて陰性になることがあり、その場合、医師は諸症状からインフルと臨床診断することもあります。簡易キットがあると

は特殊なケースだけに使用するものだと考えてください。次は治療です。インフルには飲み薬、吸い薬、点滴という3種類の抗ウイルス薬が使えます。一部の地域では飲み薬と点滴に耐性があるウイルスが増えており、今シーズンには吸うタイプの抗インフル薬の人気の高いようです。

在宅患者の多くは吸い薬が使えませんが、点滴で対応する場合があります。抗ウイルス薬を使わない人もいます。感染初期であれば葛根湯や麻黄附子細辛湯を、後期であれば補中益気湯などの漢方薬を使うこともあります。一方、ノロは絶食することが最良の「薬」になります。整腸剤などによる対症療法はありますが、時間が経過すれば自然に治ります。インフルにかかると学校などでは5日間休まないといけません。ノロについては明確な規定がなく、症状が治まれば登校や出社が可能です。最後に感染予防について説明します。両者とも手洗い、マスクの着用が重要です。くれぐれも他人にうつさないことが大切です。公共の場でウイルスをまき散らさない。高齢者や虚弱者にうつさぬようマナーを守りましょう。以上、ノロとインフルの傾向と対策でした。

という人は、接種されてもいいでしょう。ワクチンを接種してもインフルにかかる人はいますが、症状が軽くて済むとはいわれています。次は症状です。インフルは38度台の高熱が出ます。なかには40度近くになる人もいます。発熱と、全身倦怠感、脱力の特徴です。ノロの場合は熱は37度台が多いようで、吐き下しの特徴。吐く場合と下痢の場合と両方あります。見ただけではどちらか別がつきにくい人もいますが、問診すればインフルかノロ

はいえ、あくまで参考所見です。絶対的なものではありません。一方、ノロもキットはありますが、実際にはあまり使いません。インフルと違って特効薬がないので、ノロと診断を確定させる意味をあまり感じません。ノロの簡易キット

吸入用抗インフルエンザ薬「リレンザ」とイナビルがある。リレンザは1日2回を5日間吸入する。イナビルは1回吸入するのみで大変簡便だが、吸い損なわないよう注意が必要。高齢者や肺が悪い人はうまく吸えない場合がある。

ひよっぴい